

1 はじめに

中里小学校は、中里中学校と小中一貫教育を行っており、各教科等の指導計画も、9年間を見通して立てられている。生活科や総合的な学習の時間でも、各学年の発達段階に応じて、中里地区の地域の特性を踏まえた内容になっている。その中心となっているのが、郷土学習という視点である。1・2年生の生活科では、地域の山や川、きららの里などを学習の中に取り入れ、昔遊びも交流センターを通してボランティアを募って実施している。3・4年生の総合的な学習の時間では、中里の歴史や特産物から地域を知る活動と地域の環境から里川について調べる活動を行っている。5・6年生になると、農業について考え、米作りに深く関わる活動と福祉について考え、実践する活動に取り組む構造になっている。このような郷土に根ざした活動は、中学生になってからも受け継がれ、地域発信型の取り組みへとつながっていく。

2 実践例

今回取り上げるのは、昨年度取り組んだ3・4年生のテーマ「中里の環境について考え、里川について調べよう」の実践である。

(1) 川の水質調査

- ① ねらい 川にすむ生き物を採集し、その種類を調べることで、水質（水のごよれの程度）を判定する。
- ② 実施日時 7月12日（木）2～4校時
- ③ 場所 水瀬大橋 下河原付近
- ④ 講師 国土交通省 常陸河川国道事務所 調査第一課より4名
- ⑤ 簡易調査の内容
 - ア 川の様子調査・・・水の色、におい、浮遊物、流れの速さ、ゴミの量、川岸や川底の様子など
 - イ 簡易水質調査・・・パックテスト、透視度計（川の透明度の計測）
 - ウ 水生生物調査・・・水生生物の採取、水生生物の分類・同定、各班の発表



調査の結果、里川は、水質が4段階の1番上の「きれいな水」で、生き物のすみやすさも、1番上のAランクであることが分かった。（後日、報告をいただいた。）

(2) サケの飼育

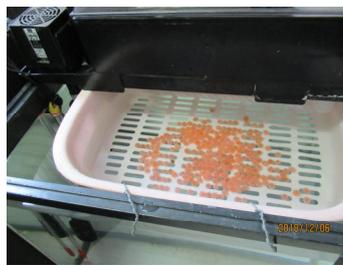
① 飼育準備 12月上旬

飼育に詳しい本校の用務員さんから、使う用具や飼育の手順、注意点などを聞き、水槽やモーター、網などの用具を洗って準備する。



② 卵到着 飼育開始 12月上旬

久慈川漁業協同組合から卵を購入。すぐに里川から運んだ水を入れた水槽に、卵を入れる。この日から、飼育を開始する。水温の測定と観察日記をつける。



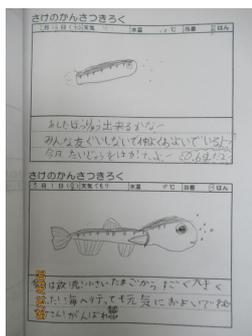
③ 稚魚の誕生と成長の観察 12月～1月

黒い目が見えるようになって数日後、ついに稚魚が誕生し始める。「さいのう」という栄養の入った袋が小さくなったら、餌やり開始。朝、登校したら、毎日2チーム交代で水温の測定、観察、餌やり、観察記録を続けた。また、1週間に一度を目安に、ポンプを使って全員で水の交換をしたり、ろ過マットの掃除をしたりして、飼育と観察を続けた。



④ 里川への放流 3月初旬

稚魚が大きくなり、いよいよ里川に放流することになった。



【観察日記より】

2月28日（木）水温10℃

明日は、ほうりゅうできるかな。みんな、共食いしないで仲よくおよいでいるよ。

今日体重をはかったよ！1匹0.6gだよ。

3月1日（金）水温9℃

今日は、ほうりゅう。小さいたまごから、すごく大きくなった。海へ行っても元気に泳いでね。サケさん、がんばれ！

【サケの旅立ち会】

放流当日朝、水槽から放流用のバケツに稚魚を移し、サケの旅立ちの準備をした。ほとんど全部の卵から稚魚がかえたので、約600匹。

全校児童で、中里中学校近くの「水辺空間」というエリアに行き、縦割り班（全校児童を4つの班に分けた活動班）ごとに、稚魚の放流を行った。



⑤ 愛郷活動 3月初旬

サケの放流と同日に、きれいな里川の水や地域の環境を守るために、自分たちでできることをしよう、という活動の一つとして、里川付近の清掃をした。縦割り班ごとに、分担場所のゴミ拾いを行い、里川をきれいに保つとともに、郷土中里を大切に育てる心を育てている。

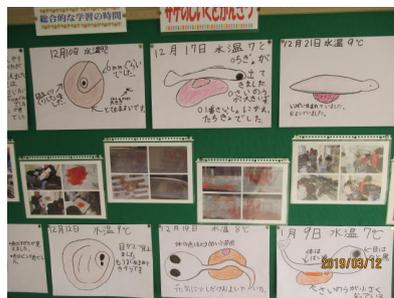


(3) まとめと活動報告発表会（児童朝会、授業参観）

自分たちが行ってきた活動を、児童朝会や授業参観の場で、児童や職員、保護者に報告する発表会を行った。水質調査で見つかった水生生物やサケの観察記録のダイジェスト版を、写真やイラストを使って作成し、全員で発表した。



発表後、資料は廊下に掲示して、全校児童での里川の状況やサケの成長過程の情報共有を図った。



(4) 振り返り

気付いたことや感じたことを、学習シートやマップにまとめた。

【児童の振り返りから】

- ・中里は、たくさんの生き物がすめるきれいな川や環境があるところだとわかった。
- ・里川には、多くの種類の生き物がいることがわかった。この環境を守っていきたい。
- ・里川や中里の山がよごれないように、ゴミを落とさないようにしたり、ゴミ拾いをしたりしたい。
- ・里川のきれいな水がおいしいお米や果物を作るのに役に立っているから、これからも大切にしていきたい。

このような言葉や内容から、子どもたちは、サケが放流された里川が、地域の宝であり、大切な資源であることに気付いたことがわかる。そして、里川のきれいな水や環境を守ることが、多種多数の水生生物がすみやすい環境を保つことにつながっていることや、地域の特産物や米作りを支えていることも学ぶことができた。

3 成果と課題

体験活動を通して学んだことが、自分たちにできることをしていこうとする次の段階への意欲を生んだ。そして、地域の特色を生かした学習が、自分たちの学校がある地域への愛着につながっていたことが成果としてあげられる。

一方、複式型で学習を進めているため、隔年で重点化するテーマを交互に組んでいるが、毎年関わりのある活動や、コミュニケーション科（本校独自）の学習との関連で、時数の確保が難しい現状がある。内容の精選や学習計画の見直しをすることが課題である。